東日本大震災が発生した３月１１日を迎えて

今年１月１日の石川県能登地方を震源とする能登半島地震により亡くなられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された方、そのご家族及び関係の皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、懸命の救急救助にあたられている皆様に感謝と敬意を表します。

さて、２０１１年（平成２３年）３月１１日に発生した東日本大震災から１３年を迎えました。東日本大震災は、最大震度が７を観測し、東北地方の太平洋沿岸部を中心に広い範囲に甚大な被害をもたらし、震災による死者・行方不明者は１万８千人を超え、多くの人命が奪われ、「防災」の考え方を大きく見直すきっかけとなりました。

また、今年発生しました能登半島地震で我々は改めて地震災害の恐ろしさを認識するとともに、防災・減災の難しさを痛感させられることとなりました。
南海トラフでは、今後４０年以内にマグニチュード８～９級の地震が発生する確率が９０％程度に引き上げられ大津波の襲来が想定されています。

さらに、近年は大型台風や線状降水帯による集中豪雨にともなう自然災害のリスクが高まり、本町においても平成２５年の台風１８号や平成２９年の台風２１号において、河川の決壊や浸水などの被害が発生しています。

このことから、東日本大震災、そして今回の能登半島地震から多くの教訓を得ることができ、そのことを忘れることなく、日々その教訓を活かせるよう、「自らの命は自らが守る」との意識を持ち、備えや訓練を繰り返し実践することが「減災」につながる大きな力となります。

竜王町といたしましても、防災に対する意識を常に維持し、いかなる災害に見舞われたとしても、「自助」「共助」「公助」の連携強化をはかりながら、迅速かつ的確な対応ができるよう努めてまいりますので、町民の皆さまにおかれましても、改めて災害への備えと安心・安全なまちづくりへのご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、被災された各地の早期復興を心からお祈り申しあげ、３月１１日を迎えてのメッセージとさせていただきます。

令和６年３月１１日

竜王町長　西田　秀治